



深田久弥

山の文化館だより

令和5年
冬号

深田久弥 山の文化館
〒921-0067
石川県加賀市大聖寺春場町十八
TEL 〇七六二七二一三三三
FAX 〇七六二七二一八一

谷口喜作と深田久弥

現在、深田久弥山の文化館では「谷口喜作と深田久弥」展を開催している。それでは、谷口喜作とはいかなる人物で、深田久弥との関係はどうだったのだろうか。

谷口喜作は、東京下谷区西黒門町の菓子舗「うさぎや」の二代目当主であり、河東碧梧桐門下の俳人でもあり、文筆家でもあった。そして、昭和八年から十八年にかけての十一年間にわたって深田久弥の著書の装幀を手掛けた文人である。その数は、最初の単行本である『翌檜』に始まり『續・知と愛』に至る十七冊に及んでいる。

深田久弥は、いくつかの著書の「あとがき」にも書いているが、『日本山

岳名著全集』月

報No.七の『わ

が山山』に出て

くる友人達』の

中で次のように

に詳しく述べて

いる。「本の装幀は谷口喜作君に頼んだ。谷口君は下谷



黒門町の菓子舗「うさぎや」の主人で、芸術的な趣味の広い人であった。凝り性で、どんな仕事でも自分の納得いくまでは承知しなかった。」このように述べていて、深田久弥は全幅の信頼をおいて装幀を任せていた様である。

十七冊のうち資料文献室に収蔵している十六冊の初版本の現物とパネルを展示している。

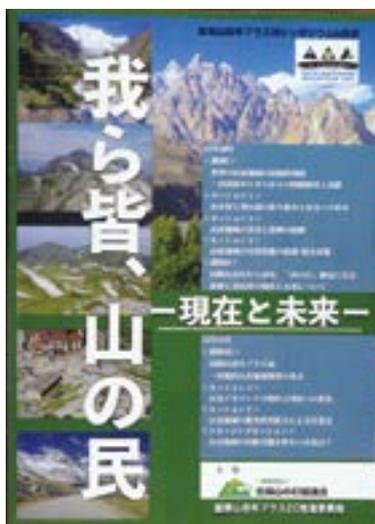


国際山岳年プラス20シンポジウム

十二月十一日に、国際山岳年二十周年記念シンポジウムが黒部市で開催された。ちょうど、十二月十日は「国際山の日」であった。会場は芸術創造センターセレネの大ホールで、主催は全国山の日協議会である。

主催者である全国山の日協議会会長谷垣禎一氏のビデオメッセージの後、地元黒部市長や来賓の挨拶が続いた。本題に入り、キルギス国際大学学長のアシベック・アイダラリエフ氏の基調講演の後、二日間にわたり五つのセッションに分けて討論が行われた。一日目の最後には、萩原浩司氏の「山の日」制定に至る経緯と登山界の現状と未来についてと題する講演も行われた。

話し合われた中でも、登山道など登山環境の整備とそれに伴う経費の問題、開発と自然環境の保護の問題などが、我々にとって身近な問題点ではなかったかと思う。詳しくは、全国山の日協議会のホームページで見ることが出来る。



久弥と五万分の一地形図と赤鉛筆

その20

深田久弥は亡くなる前の十年間、元旦にはどこかの山に登っていた。避衆登山と称し混みあう山を避けての登山だった。その元旦登山の最初となったのが正月の那須岳登山であつた。

二、三年の間、正月で込み合うスキー場や山小屋を避けて山へは出かけていなかった。我慢しきれなくなつたのか、思い立って、大晦日に出かけたのが那須岳だった。昭和三十六年十二月三十一日のことである。

この山行の地形図を探した。「那須嶽」で地勢図「日光」の二番である。はたして那須岳のあたりに書込みや赤鉛筆のラインがある。現在の地形図には表記されているが、「熊見曾根」、「隠居倉ノ頭」の名がペンで書いてある。そして、茶臼嶽の火口を回る線と茶臼嶽から朝日嶽、熊見曾根、隠居倉へと赤鉛筆の線がある。そして、茶臼嶽と三斗小屋温泉の名前は赤鉛筆でマークされている。

大晦日の晩は大

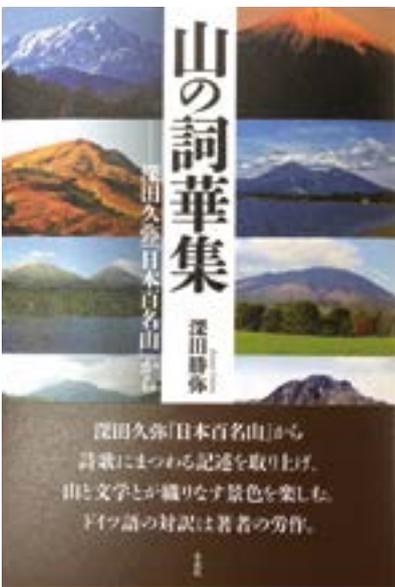


丸温泉の茶店に泊めてもらい、元旦には大丸温泉へ鉢山事務所へ峠の茶屋と辿っているが、このラインは引かれていない。熊見曾根から隠居倉へ行く間に道に迷っているが、無事三斗小屋温泉に着き一泊している。翌日は大峠から三本槍岳を回る予定だったが天候が悪いので、峠の茶屋を経て下山した。

参考文献：『山岳遍歴』『那須岳』

この一冊

鎌倉の冬花社から『山の詞華集』と題する一冊が出版されました。著者は深田久弥の甥深田勝弥氏です。内容は深田久弥の『日本百名山』から詩歌にまつわる記述を取り上げ、それに著者がドイツ語訳を付けました。そして、一部ですが著者がつけた注釈もあります。本書の帯に「山と文学が織りなす景色を楽しむ」とあるように添えられた写真と共に詩情を楽しんで下さい。またドイツ語を嗜んだ方には、その響きを楽しんで頂けると思います。山の文化館でも発売中です。



間こつ会予定

新型コロナウイルスの流行の中で、間こつ会はリモートで二会場形式にして実施しています。
(聴講無料)

午後一時半より三時
深田久弥山の文化館聴山房他

■一月二十二日(日)

演題…加賀の四大北前船主

講師…見附裕史氏(江沼地方史研究会会長)

■二月十九日(日)

演題…山歩き五十年を振り返って

講師…荒井正人氏

(深田クラブ、日本山岳会会員)

■三月二十六日(日)

演題…白山は地球の覗き窓

講師…永田泰山氏(オフィスイヌイ代表)

読書会のお誘い

『日本百名山』など深田久弥の作品を読んで、山やその自然、文化について語りあっています。お気軽にご参加下さい。
(参加無料)

一月二十七日(金)

『日本百名山』より「高妻山」

二月二十四日(金)

『日本百名山』より「祖母山」

三月十七日(金)

『日本百名山』より「トムラウシ」

●場所…深田久弥山の文化館

●時間…午後一時半より三時

*詳細はホームページをご覧ください

編集後記

平地で、一度まとまった積雪はあつたものの、大雪の予想ほどには降っていない。今シーズンは、まだ雪山へ出かけられないが、山の雪の様子には気になる。たっぷり積もって気持ち良い雪山を楽しみたいものだ。
(Y・O)

各種お知らせ詳細はホームページをご覧ください

深田久弥山の文化館ホームページ <http://www2.kagacable.ne.jp/~yamabun>